

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	30年7月9日

<p>【事業所理念】 1.私たちは優しい介護の提供を目指します。 2.温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。 3.常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 記録について・・・できていない時もあるが本人の言われたことや行動など書けるようになった。 本人の思いをくみ取る・・・個別に対応して傾聴するようにこころがけているが、まだ努力が必要。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人の母体が医療機関であり、住宅地の一角にある病院に併設され、病院とは渡り廊下でつながっているため、健康管理やリハビリが充実している。医療連携が取れていることで、職員は安心して日々のケアや看取りに取り組めており、利用者目線でよりよい生活の支援を目指している。地域との協力体制が不十分であると認識しており、今後介護教室や認知症カフェの開催を目指して検討中である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話の中で本人の希望などを聞くようにしている。	○	/	◎	日々の会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向を聞いている。介護計画見直し時には改めて意向の確認に努めている。新たな情報は日誌や介護記録に記載し、情報の共有を図っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	表情で見極めたりしてその人らしく過ごせるように努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	言葉や気づきを観察記録や申し送りノートに記入している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	しっかりされた方が多く、意向や思いを聞くようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	利用開始時に聞くようにしている	/	/	△	入居時や面会時に利用者や家族から聞き取っているほか、入居前に利用していたサービス事業所からも、生活環境やこれまでの経過等の情報を提供してもらい把握するようにしているが十分ではないので、知人の面会を利用するなど、あらゆる機会を利用し情報の収集に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	申し送りや観察記録に記入している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	気づきは観察記録に記入するようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その都度職員間で話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	観察記録や申し送りで把握できるようにしている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	他職種とも話し合って検討している。	/	/	◎	毎月ミーティングを開催しモニタリングを実施しており、一人ひとりの利用者の望む暮らしについて利用者の視点で検討している。ミーティングには夜勤者も含め全員が参加し協議内容を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	月1回のミーティングで話しあっている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	月1回のモニタリングをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを元に本人らしい暮らしができるプランを作成している	/	/	/	利用者や家族だけでなく、ユニットの担当者やリハビリスタッフ等、関係者の意見を聞き、より良く暮らすための介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族と話をすることで意見を聞き反映できるよう作成している	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方には状態にあった内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力もプランに少しではあるが盛り込まれている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	モニタリングを行い、ミーティングで話し合い職員間で共有している	/	/	○	利用者一人ひとりの状況は毎月のミーティングで共有している。毎日の観察記録に介護計画の実施状況のチェックを行い評価している。具体的な内容については観察記録に記録しているが、不十分な点もあるため、今後改善に向けた取組みに期待したい。職員の気づきやアイデアなどは申し送りノートに記載し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の観察記録に介護計画の評価を行っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	観察記録に記録するように努めているが全ては書けていない	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌などに気づきを記入するようにしている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ミーティングで話し合い、見直しを行っている	/	/	○	全利用者の介護計画は見直し時期が分かりやすく一つにまとめてファイリングされており、通常6か月で見直されている。状態に変化がない場合でも、毎月担当者がモニタリングを行い、ミーティングで報告し共有している。骨折や病状に変化がある場合などは、その都度関係者で見直し現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員間で現状や変化を報告している	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	入院後や身体の状態に変化があった場合話し合い現状に応じたプランを作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	ミーティングで話し合っている	/	/	○	月1回のミーティングで利用者の情報共有や課題の検討を行い、緊急案件はその都度話し合っている。基本的には全員参加としているが、参加できない職員はミーティングノートで確認できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いろんな意見が出るように一人ひとりの意見を出している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	時間は昼過ぎに行い、みんなが参加できる時間帯にしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	ミーティングノートを作成しており、みんなが確認できるところに置いてある	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や申し送りノートを活用して確認したら印をするようにして共有できるようにしている	/	/	◎	職員間で共有すべき内容については、朝夕の申し送りで情報を伝えるほか、日誌や申し送りノートを活用し、確認印やサインをすることで確実な伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝・夕の申し送りを必ず行い、情報を伝えている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	声掛けを行いしたいことを聞くようにしている	/	/	/	起床のタイミングや入浴に関してはその都度「～しますか？」と聞いており、また洋服を選んでもらったり、就寝時間なども利用者の希望を聞き、本人のペースで自由に生活している。レクリエーションの際には、みんなで楽しめる雰囲気づくりの様子と利用者の表情の変化を見ることができた。食事の際のテーブル席は決まっているが、それ以外は自由に席を移り会話を楽しんでいる様子が窺えた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定できるような声掛けをしている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分のしたいこと言いたいことは言われている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者様のペースで生活し、臥床の時間もバラけている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	できそうなことは声掛けを行い、していただいて感謝の言葉を伝えるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情を見極めて支援するように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	接遇の研修にも参加して、声掛けなど十分に気を付けている	○	○	○	職員は接遇の研修で人権や尊厳について学んでおり、利用者が傷つくような、失敗を指摘するような声かけはしないように心がけている。職員のトイレ誘導時の声かけなどには配慮しているが十分ではないので、職員全員で共有し取り組むことが望まれる。居室の入室時にノックや声かけはできているが、利用者がリビングで過ごしている時には声かけなしで入室することがあり、職員全員で徹底しプライバシーの確保に努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	声掛けの仕方や配慮に欠けているところもあり。ミーティングで話し合っている	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	配慮に心掛けているが欠けているところがある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛けはしておりプライバシーは確保できている	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	就職したら、説明して誓約書を取っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯畳やコップ洗いを一緒にすることで感謝の気持ちを伝えるようにしている	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握し席を決めている。利用者の状態の変化や気分によって席を変えるなど配慮しており、利用者同士の会話も弾んでいる。夫婦で別室に入居されている利用者には、お互いの気持ちを尊重しつつも二人で過ごし支えあえるよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者さん同士で声掛けあったり、いたわりながら暮らせている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握して、孤立しがちな方には職員が傍で輪の中に入れるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	さりげなく間に入るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	×	家族以外は把握できていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族からの聞き取りや会話の中での情報で把握するようにしている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	知人に会いに行ったりはできていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来棟の際は自室でゆっくり過ごせるようにしている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はたまにあるが少ない為中庭で日光浴など行うようにしている	△	×	△	職員は利用者との普段の会話の中から意向をくみ取ることはできており、近所のスーパーに買い物に行ったり、食事に出かけたりすることもあるが、頻度としては少ないので外出の機会を増やすよう努めて欲しい。重度の利用者は散歩に付き添うのも難しい状況で、中庭での日光浴で気分転換を図っている。毎月ユニット間の交流は行われており、交代で当番のユニットに出かけ関わりを持つようにしているが、戸外に散歩に出かけるなどの取組みにも期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態を観ながら中庭で日光浴をしている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	本人の希望は把握しているがなかなか行けていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の理解をして状態変化時には話し合いをしている	/	/	/	庭に出て一緒に洗濯物を干したり、ソファに座って取り込んだ洗濯物を畳んだり、コップ洗いやお盆拭きなど、それぞれの利用者ができることに取り組めるよう、職員は見守りやさりげない支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全員はできていないが今後取り組むようにしている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	できる事はして頂けないところを一緒にしている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	生活歴を踏まえて、楽しみを考えている	/	/	/	職員は利用者のできることを確認しながら、日常生活の中で張り合いのある暮らしを支援している。中庭の落ち葉の掃除を丁寧にしてくれる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	洗濯たみや食器洗いの役割を持っていただき張り合いのある日々を支援している	△	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の参加はできていない	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の好みの髪型を聞きながらしている	/	/	/	食後は各居室で口腔ケアを行っており、着衣が汚れている時は「かわいい服に着替えますか？」と声をかけ、好みの服に着替えるなど配慮している。美容院に行かれる利用者が2人いるが、他の利用者は職員が本人の好みを聞きながら定期的にかットしている。重度な利用者も好みの髪型を聞き、その人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	自分の出来る方は好きなようにされている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けを行い出来る範囲でしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時にはおしゃれも楽しんでもらえるようにしている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食後は特に注意して、さげない声掛けをしている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族にも協力してもらい望む美容室に行ってもらっている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	髪形など本人らしさが出るようにしている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しさを理解して支援している	/	/	/	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材も一括購入され、バランスの取れた献立になっている。「饅頭が食べたい」などの希望を反映し、おやつを手作りすることもあるが、旬の食材や昔なつかしいものを献立に取り入れるなどの取組みにも期待したい。茶碗やコップ、箸などは馴染みのものを使っている。食事介助の必要な利用者が多く、職員はサポートに専念するため一緒に食べることはできないが、介助しながら見守りや声かけを行っている。重度の利用者も状態を見ながら時にはリビングで一緒に食べているが、日頃から献立の話をするなど食事が楽しみになるような取組み等にも期待したい。調理専門のスタッフが、栄養士のアドバイス等をもとに、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう各ユニット毎に調理している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	片づけを出来る利用者様には、手伝ってもらっている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	片づけは一緒に行い利用者の力を発揮してもらっている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前に本人や家族から聞き取りして把握するようにしている	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	栄養士の作ったメニューの中に季節感を感じられるメニューもあります	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々にあった食事形態にあわせてミキサー食を工夫している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物や使いやすい物を持ってきてもらっている	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	一緒には食べていないが見守りや介助をしながら、食べこぼしや座位姿勢を整えるサポートをしている	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	重度の方はたまにはあるがみんなが食事できるように支援している	○	/	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が作ったメニューで栄養バランスはよく、水分もなるべく摂取してもらうように対応している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミングを見ながら、脱水にならないように声掛けなど工夫している	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が作った献立には一人分の量が書いているので参考にしている	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	夜に調理器具などハイターに付けて消毒している	/	/	/			

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口腔ケアの重要性を話し合っており、理解していると思う	/	/	/	口腔ケアは1日4回(起床時と毎食後)声かけを行い実施している。自分でできる利用者には自分でするよう声をかけ、口腔内に食べ残しがないか確認している。口を開けてくれない利用者にはお茶を飲んでもらったり、ガーゼで拭き取りをして口腔内の清潔保持を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でできない方に対しては確認しているが自分でできる方は確認不足の時がある	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医に月1回来ていただいてケアの仕方など教えていただいている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来ない方は職員が行い、出来る方は声を掛けながらして頂いている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	毎食後声掛け誘導を行い清潔を維持できるようにしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	変化があった時には家族に連絡して歯科受診を勧めている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけトイレで排泄できるようにしている	/	/	/	おむつ使用者もトイレ誘導を行いトイレでの排泄を目指している。立位が困難な利用者は2名体制で介助している。おむつ使用の適正についてミーティングで話し合っており、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。日中はできる限りトイレでの排泄支援に努め、夜間は睡眠を優先して定期交換するなど、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員で話し合っており理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表に記録して把握するようにしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ほとんどの方が布パンツだが状態にあっているか話し合いはしている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給の促しや入浴時には湯船に浸かってもらうようにしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人ひとりのパターンを把握し誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	×	家族にも説明しているが話し合いはできていない	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	牛乳などを飲んでもらったり体操をする工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	声掛けしながら希望に沿えるように入浴してもらっている	○	/	○	週2回午後入浴を基本としているが、利用者の希望には柔軟に対応しており、曜日を変更したり週3回入浴する利用者もいる。重度の利用者も2人介助で浴槽につかってもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースで入浴してもらっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ないところを支援し安心して入浴してもらっている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	話を傾聴したり時間をあけて再度声掛けを行ったり工夫している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴時にはバイタル測定し、日中の状態を確認しながら行っている。入浴後は水分補給し状態確認している	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとり、申し送りで把握している	/	/	/	夜眠れない利用者については、日中の離床時間や活動を多くするよう工夫しており、安易に薬には頼らない支援に取り組んでいる。不眠等不穏な状態が続きやむを得ない場合は、主治医と相談し薬を服用するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の声掛けやレクを行いながら、離床時間を増やし生活リズムを工夫している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	入所前から飲まれていた方も医師と相談しながら指示に従っている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	自由に休んでもらえるようにしている。介助が必要な方は聞きながら行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	手紙を書いている方がおり、面会時に渡すようにしている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	携帯を持参している方もおり、いつでも掛けれるように支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	いつでも電話出来る様にはしているが利用者様がかけられたりしたことはない	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	届いた手紙などはご本人に渡しているがそのままになっていることが多い	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族の理解、協力はいただいている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はできている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出時には自分の欲しい物を買っていただいている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	特に説明はしていないが問題なく買い物できている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談して、金額は決めさせてもらっているが、自分で使えるようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	面会時に使い方を伝えている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	基本預りはせず、外出予定の際に預かるようにしている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る限り本人や家族の意向に添えるように取り組んでいる	○	/	○	母体病院以外の受診は家族介助が基本で、介護タクシーの紹介もしているが、家族の状況によっては受診介助や救急車の同行にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上、外玄関には施錠させてもらっている	○	◎	×	中庭に面した外玄関前は広々としており駐車スペースも十分にあるが、防犯上の観点から常時施錠されている。家族や近隣の住民が気軽に入出入りできるよう取り組むことが望まれる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	家庭的な雰囲気で明るく、季節の花を飾り心地よく過ごせるように工夫している	○	○	○	キッチン是对面カウンターになっており、リビングの様子が窺えるようになっている。リビングは中庭に面した開放的な大きなガラス戸から、芝生や木々の緑を眺めることができる。細かいところまで清掃ができていないので、清潔感が保てるよう取り組んで欲しい。隣接する病院との渡り廊下では利用者の会話が聞こえ、不快な臭いは感じない。ひまわりやあじさい、朝顔などの壁飾りの作品や七夕飾りが季節感を醸し出している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	定期的に換気を行い、配慮している。毎日清掃しているが細かいところまで行き届いていない	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	花の匂いやテレビの音等生活感があるように心がけている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファもあり、利用者同士でくつろげるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	配慮が足りていない	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたタンス等を持参してもらって使ってもらっている	○	/	◎	洋服たんす、チェスト、エアコン、ベッド、洗面台は備え付けられているが、テレビや冷蔵庫は利用者の希望で持ち込まれている。ぬいぐるみや塗り絵作品、家族写真や観葉植物なども置かれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	手すりを使って自立した生活が送れるようにしている	/	/	○	居室の表札やトイレ・風呂の表示も手作りで、個別性があり分かりやすいよう工夫したり、手すりも設置するなど自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	場所が分かるように掲示している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	生活空間には置いていないが本人の希望があれば出せるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	職員にも伝え理解はしているが外玄関は施錠している	×	×	×	職員は玄関等の施錠の弊害について理解しているが、玄関は安全確保のため常時施錠されているため、職員が常に見守るなど自由に出入りできるよう支援に努めることが望まれる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	自由な暮らしの理解はしているが安全上施錠させてもらっている。話し合いは出来ていない	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	近所の理解・協力がなかなかできていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をまとめて個人ファイルに挟んでいる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルや食事・水分量・排泄・睡眠状態を記入している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関いつでも連絡できる体制があり、常に情報交換を行い共有している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意向を聞き受診してもらっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医と連携を取っており、利用者はいつでも適切な医療を受けられるようにしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は必ず家族に連絡し報告している。また申し送りなどで職員にも情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	日々の情報をまとめて作成して渡すようにしている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネが病院と連携を取り状態を確認したり努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	連携室と関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎日協力機関の看護師や医師に報告するようにしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡でき、対応可能な体制になっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、小さな変化でも報告している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情はいつでも確認できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れを防ぐために2名で出すようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	変化があるときには必ず報告するようにしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	診察時に変化や状態を報告するようにしている				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には家族に説明しており、状態変化時家族、主治医と相談話し合っている	/	/	/	状態が変化した時には、家族や主治医、職員のみでなく協力医療機関とも話し合い今後の方針について共有している。家族の意向を重視し、希望に沿えるよう支援している。職員も併設の病院があるため安心して支援に努めることができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族と必要に応じて看護師や主治医と話し合い、本人様にとってどうしたらよいか確認しながら支援内容を検討している	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量は把握しており、思いなども聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えたいことで対応している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡をとりながら体制を整えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族の気持ちに寄り添っている。その際は職員の声掛けには十分気を付けている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修に参加したり併設する病院からの助言をもらっている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	併設する病院と連携し、早期対応している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞や併設する病院から情報は取り入れている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの情報を得て予防対策等対応できるようにしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒やマスクを置いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には話をするようにしている	/	/	/	行事の案内はしているが、仕事の都合や遠方などの理由で参加は少ないため、家族が参加しやすいよう日程の調整等を行うことなどが望まれる。疎遠になっている家族も含め、毎月担当職員が1か月の様子を知らせる便りや、行事の際には菜の花だよりを送付しているほか、何かあれば電話で連絡を取っている。面会時には声をかけ家族の思いや希望を聞くようにしている。行事予定や介護報酬の改定などは連絡しているが、職員の異動や担当者の交代などは連絡できておらず、家族との関係構築のためにも報告することが望まれる。面会時には必ず声をかけるなど、普段から話しやすいよう信頼関係の構築に努め、気軽に相談等の対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室で本人様とゆっくり過ごして頂けるように声掛けを行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	行事の案内をだして参加を呼び掛けている	○	/	×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便り、菜の花便りを発送している	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれたことは伝えるようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	本人と家族の関係が維持できるように支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事等は伝えているが、職員の移動等は伝えきれていない	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	出来ていない為家族同士の交流が図れるように支援していきたい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	×	自由に暮らして頂けるように説明はしているがリスクまでの説明はあまりできていない	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から話し合える信頼関係に取り組んでいる。面会時には必ず声を掛けさせていただいている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者やケアマネ同席で説明・理解していただいている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	相談にのりながら支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更際は説明して同意を得るようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	説明を行い理解を得ていると思う	/	◎	/	近くの幼稚園や小学校との交流はあるが、地域の活動や行事への参加はできていない。現在、町内会に加入しておらず回覧板が回ってこないため、地域の情報が把握できない状況となっている。地域とのネットワークづくりに努め、利用者が地域と深くつながりながら暮らしていけるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の小学校等の運動会には参加している。また毎日の挨拶は心掛けている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の人との交流は無い	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に来てもらえるようにしていきたい	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	あいさつをしたりする程度	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	介護相談員の受け入れもしている。行事の際はボランティアの方にも参加していただいている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近くのスーパーへの買い物はできている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の幼稚園と交流している。また町内の飲食店は利用させていただいている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	隣接する施設と合同で行っており、毎回の参加はできていない。地域の方も不参加のこともあり	×	/	△	併設の小規模多機能事業所との合同開催のため、交互に家族に参加してもらっている状況で、参加者が少ないことが課題である。会議では外部評価の報告はできていないので、今後は積極的に報告して欲しい。地域住民の参加については、退所した利用者の家族の参加が見られたが、近隣の住民への声かけや家族に興味を持ってもらえるテーマの選定等を検討し、参加しやすいよう配慮するなど、今後の取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事や研修報告はしている行事については写真を見ながら報告している	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現況報告を行って意見をいただいている	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていないが、出席してもらいやすい時間帯を選んでいる	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないが言ってもらったら見せれるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目のつくところに理念を貼り実践につなげられるようにしている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	菜の花便りにも理念をのせている	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修の計画を立てているが力量に応じて研修の参加を促している	/	/	/	代表者が職員に会う機会が少なく、現在は理事長代理に相談したり、管理者を通し代表者に意見を伝えてもらっているが、以前のように意思疎通までには至っていないため、今後は職員の悩み等を聴く機会を設けるなどストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりにも努めて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	スキルアップできるように技術を伝えたりしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	やりがいを感じれるように職場環境や配置に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	出来ていないので交流の機会を増やす取り組みに努めたい	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取り組めていない	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	高齢者虐待についてミーティングで話し合い、言葉遣いまで気を付ける様話し合い理解している	/	/	/	何気ない声かけや関わり等が不適切な場合は、すぐに話し合い対応するなど、対応方法や手順等について職員全員で共有し支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングなどや日々の中で話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない声掛けや関わり方が不適切だった場合はすぐに話し合うようにしている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声を掛けたり話を聞いている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	研修の参加はできていないがミーティングで話し合って理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング内や日々話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束しない工夫を話し合って、理解している	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解できているが全員ではない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援していけるようにしたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練はできていないが日々の中で実践にて身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	×	ヒヤリハット用紙はあるが活用できていない。活用し再発防止に努めたい				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態をよく理解してリスク管理に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はすぐに話し合い理解して適切な対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情にたいして速やかに検討して結果報告するようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱の設置を設け伝えられるようにしている			◎	利用者との日々の会話の中から聞き取ったり気づいたりしたことを話し合い検討している。意見箱は設置しているが活用されていない。家族には面会時に声かけをし意見や要望を聴いているが不十分なので、意見箱の設置を認識してもらうよう取り組むとともに、さらに意見等の集約にも努めて欲しい。管理者は職員から月1回のミーティングで日々の気づきや意見を聞き、話し合い運営につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を玄関先に配置している	○		△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供は行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は毎日ではないが来られている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見提案をミーティングなどで聞き利用者本位の支援につなげている			○	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年に1回は自己評価し目的を理解している				目標達成計画について運営推進会議で報告できていない。家族に対しては外部評価を玄関先に置いており、いつでも見られるようにはしているが、アンケートの結果報告はしていない。今後は、目標達成に向けての取組みについてモニターしてもらい、より質の高い事業所を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明確にすることで意識づけしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向けて実践している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標報告はできていないが取り組みなど報告している	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成計画に掲げた取り組みはしているが成果の確認はできていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアルは作成して周知している				消防署の指導を受けながら避難訓練を行っており、福祉避難所として指定も受けているが、地域の防災訓練の情報はなく、近隣の事業所や地域住民を含めた訓練や話し合いは行われていない。今後は支援体制の構築などつながりを深め、地域との連携強化に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	1度だけがマニュアルに沿って訓練を行った				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的に避難経路の確保や非常食の点検はしている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回消防訓練があり、そのうち一度は消防署の方に参加してもらっている	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の研修には参加しており災害対策に取り組んでいる				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けて発信で来出来ていない為今後取り組みたい				地域からの相談は母体病院にかかってくることが多いが、相談件数があまりないので、事業所の積極的なPRに努めて欲しい。地域包括支援センターの行事や愛媛医療センター主催の研修会に参加したり、同センター地域医療連携室を訪問し連携を図っており、介護教室や認知症カフェの開催など、地域に開かれた事業所を目指すことを検討しており、今後に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	なにか相談があれば支援できるようにしている		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事の際は交流の場として活用している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の福祉課等の実習の受け入れを行っている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連絡を密にとっているが地域のイベントなど参加できていない			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	30年7月9日

<p>【事業所理念】 1.私たちは優しい介護の提供を目指します。 2.温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。 3.常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・職員のスキルアップの為、資格取得に取り組み、介護福祉士の資格の取得が出来たい職員がいる。 ・介護記録の見直しを行い、様式を変更し簿のモニタリングも記入できるようにし整備した。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人の母体が医療機関であり、住宅地の一角にある病院に併設され、病院とは渡り廊下でつながっているため、健康管理やリハビリが充実している。医療連携が取れていることで、職員は安心して日々のケアや看取りに取り組めており、利用者目線でよりよい生活の支援を目指している。地域との協力体制が不十分であると認識しており、今後介護教室や認知症カフェの開催を目指して検討中である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	重度な方が多く全体的には把握は難しい。	○	/	◎	日々の会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向を聞いている。介護計画見直し時には改めて意向の確認に努めている。新たな情報は日誌や介護記録に記載し、情報の共有を図っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その都度職員間で話し合うよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会がある方については家族に話を聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	介護記録は活用しているが思いの整理は不十分。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	月1回のミーティングで振り返るようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	利用開始時や面会時には家族から聞き取りするようにしている。	/	/	△	入居時や面会時に利用者や家族から聞き取っているほか、入居前に利用していたサービス事業所からも、生活環境やこれまでの経過等の情報を提供してもらい把握するようにしているが十分ではないので、知人の面会を利用するなど、あらゆる機会を利用し情報の収集に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の観察やミーティングで職員間で確認するようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	申し送りや介護記録で確認するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	△	その都度職員間で話し合っているが、不十分。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録や申し送りノートを活用し把握するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	月1回のモニタリングやミーティングで話し合っている。	/	/	◎	毎月ミーティングを開催しモニタリングを実施しており、一人ひとりの利用者の望む暮らしについて利用者の視点で検討している。ミーティングには夜勤者も含め全員が参加し協議内容を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	月1回のモニタリングやミーティングで話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	月1回のモニタリングやミーティングで話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを元に本人らしい暮らしができるプランを作成している	/	/	/	利用者や家族だけでなく、ユニットの担当者やリハビリスタッフ等、関係者の意見を聞き、より良く暮らすための介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族の意向やリハビリ担当者の意見も聞きながら、ミーティングでその人らしい内容かどうか話し合っている。。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方は施設利用も長い為、状態も安定しその方に合わせた過ごし方になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力は一部あるが、地域の協力体制は無い。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月1回のモニタリングで話し合っている。	/	/	○	利用者一人ひとりの状況は毎月のミーティングで共有している。毎日の観察記録に介護計画の実施状況のチェックを行い評価している。具体的な内容については観察記録に記録しているが、不十分な点もあるため、今後改善に向けた取組みに期待したい。職員の気づきやアイデアなどは申し送りノートに記載し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	月1回のモニタリングで話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	出来るだけ具体的に記録するようミーティング等で指導している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	一部の利用者については出来ている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所時3ヶ月、通常6か月、その他状態変化に応じて見直ししている。	/	/	○	全利用者の介護計画は見直し時期が分かりやすく一つにまとめてファイリングされており、通常6か月で見直されている。状態に変化がない場合でも、毎月担当者がモニタリングを行い、ミーティングで報告し共有している。骨折や病状に変化がある場合などは、その都度関係者で見直し現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のミーティングで確認するようになっている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きく変化が生じた場合は家族、関係者含めて見直しするようになっている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月1回のミーティングと緊急案件はその都度、話し合っている。	/	/	○	月1回のミーティングで利用者の情報共有や課題の検討を行い、緊急案件はその都度話し合っている。基本的には全員参加としているが、参加できない職員はミーティングノートで確認できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	具体的な質問で個別にも意見を聞くようになっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務内で出来る様配慮し、個別の都合も主任が確認するようになっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	欠席者は主任が個別に申し送りしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	日誌や申し送りノートを活用して確認したら印をするようにして共有できるようにしている。	/	/	◎	職員間で共有すべき内容については、朝夕の申し送りで情報を伝えるほか、日誌や申し送りノートを活用し、確認印やサインをすることで確実な伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようになっている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝・夕の申し送りを必ずして情報を伝えるよう努めている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日常の会話の中でしたいことがないか聞いたりしているが、利用者からの意見はあまりない。	/	/	/	起床のタイミングや入浴に関してはその都度「～しますか？」と聞いており、また洋服を選んでもらったり、就寝時間なども利用者の希望を聞き、本人のペースで自由に生活している。レクリエーションの際には、みんなで楽しめる雰囲気づくりの様子と利用者の表情の変化を見ることができた。食事の際のテーブル席は決まっているが、それ以外は自由に席を移り会話を楽しんでいる様子が窺えた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	一部利用者については洋服を選んでもらったりしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者に応じて安全を考慮しながら、思いのままに過ごせるよう見守りしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	1日の流れは決まっているが入浴など個別で対応出来ることは本人に確認しながら個々のペースで対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	レクを通じて、本人の能力や楽しみを引き出す雰囲気作りに努めている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情を見極めて支援するように努めているが十分ではないと思う。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	△	接遇研修にほぼ全職員が参加し、再度基本的な対応を確認し意識付けを行った。	○	○	○	職員は接遇の研修で人権や尊厳について学んでおり、利用者が傷つくような、失敗を指摘するような声かけはしないように心がけている。職員のトイレ誘導時の声かけなどには配慮しているが十分ではないので、職員全員で共有し取り組むことが望まれる。居室の入室時にノックや声かけはできているが、利用者がリビングで過ごしている時には声かけなしで入室することがあり、職員全員で徹底しプライバシーの確保に努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	×	全職員が配慮できるよう指導を心がけている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	利用者に応じて羞恥心に配慮した対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	入室時のノックや声掛けは心がけているが不十分。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	△	職員の認識が低いと、ミーティングで伝え、意識付けを行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日常的に洗濯干しなどのお手伝いをしてもらい、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握し席を決めている。利用者の状態の変化や気分によって席を変えるなど配慮しており、利用者同士の会話も弾んでいる。夫婦で別室に入居されている利用者には、お互いの気持ちを尊重しつつも二人で過ごし支えあえるよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入所後に仲良くなった方やご夫婦での利用者への対応を話し合いながら日々のケアに繋げている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	テーブルやソファを活用し、仲の良い方が話しやすい環境づくりやご夫婦での時間が持てる様な作りに努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を見ながら職員が介入するようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族関係についてはほぼ把握できているが、そのほかの関係の把握はできていない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	家族や本人から聞き取りするよう努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族以外の交流が出来ている方はいない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	来棟の際は笑顔で接し、自室でゆっくり過ごせるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	希望に沿ってではないが、時々中庭を活用し庭の草ひきや日光浴などで気分転換の機会を作っている。	△	×	△	職員は利用者との普段の会話の中から意向をくみ取ることはできており、近所のスーパーに買い物に行ったり、食事に出かけたりすることもあるが、頻度としては少ないので外出の機会を増やすよう努めて欲しい。重度の利用者は散歩に付き添うのも難しい状況で、中庭での日光浴で気分転換を図っている。毎月ユニット間の交流は行われており、交代で当番のユニットに出かけ関わりを持つようになっているが、戸外に散歩に出かけるなどの取組みにも期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	状態を観ながら中庭で日光浴をしている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の希望があり家族の協力があれば、お墓参りなどに出かけている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症への理解度が少し低いと思われる為、今後は研修等でケアに繋げていきたい。	/	/	/	庭に出て一緒に洗濯物を干したり、ソファに座って取り込んだ洗濯物を畳んだり、コップ洗いやお盆拭きなど、それぞれの利用者ができることに取り組めるよう、職員は見守りやさりげない支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	重度の方も多く、機能低下顕著。職員のスキルアップを含め取り組んでいきたい。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようになっている。(場面づくり、環境づくり等)	△	利用者により洗濯干しなど見守りだけで対応している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	脳トレや遊びり等を通じて少しずつ引き出せるよう努めている。	/	/	/	職員は利用者のできることを確認しながら、日常生活の中で張り合いのある暮らしを支援している。中庭の落ち葉の掃除を丁寧にしてくれる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	能力に応じて洗濯干しや洗濯たたみなど手伝ってもらっている。	△	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の参加はできていない。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	家族からも聴き取りしながら本人の好みを把握できるよう努めている。				食後は各居室で口腔ケアを行っており、着衣が汚れている時は「かわいい服に着替えますか？」と声をかけ、好みの服に着替えるなど配慮している。美容院に行かれる利用者が2人いるが、他の利用者は職員が本人の好みを聞きながら定期的にかットしている。重度な利用者も好みの髪型を聞き、その人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	自己決定出来る方には自分でしてもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員で話し合い本人の気持ちを考え、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	行事には普段より華やかな物を着たりしてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	介助の方が多く、十分には出来ていないこともある。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	ほぼ全員が施設内での対応となっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	自己決定出来る方には聞きながら対応するよう努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	食事の楽しみは理解していると思う。				献立は法人の管理栄養士が作成し、食材も一括購入され、バランスの取れた献立になっている。「饅頭が食べたい」などの希望を反映し、おやつを手作りすることもあるが、旬の食材や昔なつかしいものを献立に取り入れるなどの取組みにも期待したい。茶碗やコップ、箸などは馴染みのものを使っている。食事介助の必要な利用者が多く、職員はサポートに専念するため一緒に食べることはできないが、介助しながら見守りや声かけを行っている。重度の利用者も状態を見ながら時にはリビングで一緒に食べているが、日頃から献立の話をするなど食事が楽しみになるような取組み等にも期待したい。調理専門のスタッフが、栄養士のアドバイス等をもとに、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう各ユニット毎に調理している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	利用者と一緒ににはできていない。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	利用者と一緒ににはできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前にケアマネからの情報の閲覧や本人や家族から聞き取りして把握するようにしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	苦手なものやアレルギーは入所時に必ず聞き取りし、献立は栄養士が作成しており、季節感はある。			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々の状態に応じた食事形態になっており、器や盛り付けも工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	お箸コップお茶碗は入所時に本人のものを持ち込んでもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事はしていないが、介助や見守りなどで食卓にはつき、声掛けや必要な支援を行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事30分前には全員が食卓に揃い、調理の音や匂いは感じてもらっている。	○		△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士のメニューは栄養バランスはよく、水分も1日1000mlを目安に摂取してもらうよう努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミングを見て個別に対応するなどして、脱水にならないよう努めている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	個別に必要な方は栄養士からのアドバイスをもらっている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	夜に調理器具などハイターに付けて消毒するようにしている。						

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口腔ケアの重要性をミーティング等で話し合うようにしている。	/	/	/	口腔ケアは1日4回(起床時と毎食後)声かけを行い実施している。自分でできる利用者には自分でするよう声をかけ、口腔内に食べ残しがないか確認している。口を開けてくれない利用者にはお茶を飲んでもらったり、ガーゼで拭き取りをして口腔内の清潔保持を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でできない方に対しては確認しているが自分でできる方は確認不足の時がある	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	日々の状態を職員間で確認し月1回の歯科医訪問時に報告しアドバイスもらっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	月1回の歯科訪問時に指導を受けている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者の能力に応じた支援方法を実践している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じ家族に連絡して訪問歯科診療にて対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	利用者の状態に応じてポータブルトイレも活用しながら、出来るだけトイレで排泄できるよう対応している。	/	/	/	おむつ使用者もトイレ誘導を行いトイレでの排泄を目指している。立位が困難な利用者は2名体制で介助している。おむつ使用の適正についてミーティングで話し合っており、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。日中はできる限りトイレでの排泄支援に努め、夜間は睡眠を優先して定期交換するなど、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者の状態に応じて職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	月1回のモニタリングやミーティングで話し合い、その都度話し合って状態に応じた支援に努めている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	月1回のモニタリングやミーティングで個別に検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	日中と夜間での使い分けはできているが、時間帯や本人の好みではできていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の能力に応じて対応するよう努めている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分量を把握し、多目の水分摂取に努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	1日の流れで時間帯は同じだが、長さや温度は本人の好みを聞きながら対応している。	○	/	○	週2回午後入浴を基本としているが、利用者の希望には柔軟に対応しており、曜日を変更したり週3回入浴する利用者もいる。重度の利用者も2人介助で浴槽につかってもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々の状態に応じて支援方法を変えている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるところは自立を促しできないところを介助するようになっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	無理強いせず時間や日にちをずらしたりして対応しているが、原因や理由の把握はあまりできていない。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴時にはバイタル測定し、日中の状態を確認して入浴し、入浴後は水分補給し状態確認もしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りで把握している。	/	/	/	夜眠れない利用者については、日中の離床時間や活動を多くするよう工夫しており、安易に薬には頼らない支援に取り組んでいる。不眠等不穏な状態が続くやむを得ない場合は、主治医と相談し薬を服用するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼寝する方もおられるので、日中出来るだけホールで過ごしてもらっている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	記録や申し送りで本人の状態を把握し、主治医に報告し指示をもらっている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	食事後の休憩や個別の臥床時間の確保をしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	現在、来ていないので今後取り組みたい。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	現在は支援していない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	携帯を持ち込んでいる方もおられる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙が届く利用者もない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	現在希望が無く該当する利用者もない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はできていると思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物する機会がない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に取り組みはしていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	必要に応じ入所時に家族と相談し個別の対応を行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要に応じて個別に対応している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	基本預りはせず、外出予定があるときに預かるようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	新しいニーズが出た時には個別対応やユニット全体の対応が出来るかどうか検討していきたい。	○	/	○	母体病院以外の受診は家族介助が基本で、介護タクシーの紹介もしているが、家族の状況によっては受診介助や救急車の同行にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上、外玄関には施錠しており、特に工夫はしていない。	○	◎	×	中庭に面した外玄関前は広々としており駐車スペースも十分にあるが、防犯上の観点から常時施錠されている。家族や近隣の住民が気軽に入出入りできるよう取り組むことが望まれる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	ソファを配置し、壁面飾りも利用者と一緒に作成し飾るようにしている。	○	○	○	キッチン是对面カウンターになっており、リビングの様子が窺えるようになっている。リビングは中庭に面した開放的な大きなガラス戸から、芝生や木々の緑を眺めることができる。細かいところまで清掃ができていないので、清潔感が保てるよう取り組んで欲しい。隣接する病院との渡り廊下では利用者の会話が聞こえ、不快な臭いは感じない。ひまわりやあじさい、朝顔などの壁飾りの作品や七夕飾りが季節感を醸し出している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	ポータブルトイレの掃除やトイレ掃除を定期的に行い、気を付けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	テレビや音楽を流したり、季節の花を飾ったり、雑誌などを置いている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブルやソファの配置を工夫し、気の合う利用者で過ごせるよう工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	建物の構造上見えない作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に家族にお願いし、使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○	/	◎	洋服たんす、チェスト、エアコン、ベッド、洗面台は備え付けられているが、テレビや冷蔵庫は利用者の希望で持ち込まれている。ぬいぐるみや塗り絵作品、家族写真や観葉植物なども置かれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホールには手すりがあり、歩行器や杖歩行の方の動線も考慮しテーブルやソファを配置している。	/	/	○	居室の表札やトイレ・風呂の表示も手作りで、個別性があり分かりやすいよう工夫したり、手すりも設置するなど自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	トイレの表示を分かり易くしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	雑誌などはいつも手にとれるようテーブルに置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員にも伝え理解はできていると思う。	×	×	×	職員は玄関等の施錠の弊害について理解しているが、玄関は安全確保のため常時施錠されているため、職員が常に見守るなど自由に出入りできるよう支援に努めることが望まれる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	外玄関の施錠や施錠中での自由な暮らしについても入所時に説明し、理解を得るようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	安全上、全面開錠は危険がある為難しいし、近所への働きかけも行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時の情報を閲覧したり、個人ファイルにファイルいつでも見直しできるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルや食事・水分量・排泄はチェック表を活用し、睡眠状態や体調については個人記録や日誌に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関いつでも連絡できる体制があり、常に情報交換を行い、状態に応じて対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人の状態に応じ、主治医の指示ももらいながら、家族の意向を聞き受診出来る様にしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医や協力期間と連携し、利用者の状態に応じていつでも適切な医療を受けられるように対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は必ず家族に連絡し報告している。必要に応じ直接主治医から家族への説明も行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、介護サマリーを作成し情報提供を行い、特別な事は口頭でも伝えるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ケアマネが病院と連携を取り状態を確認するよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	ケアマネが定期的に連携室を訪問するようになっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎朝の主治医への報告や体調変化時の上申などで常に連携をとるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で対応可能となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、小さな変化でも報告するようになっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情は個別のファイルで管理し、いつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬直前に2名で確認するようになっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	各種チェック表を活用し心身の状態を把握し、変化があるときには必ず報告するようになっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	週1回の定期診察時に変化や状態を報告し、指示があれば記録するとともに必要に応じて家族にも連絡するようになっている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には家族に説明しており、必要に応じ家族、主治医と相談している。	/	/	/	状態が変化した時には、家族や主治医、職員のみでなく協力医療機関とも話し合い今後の方針について共有している。家族の意向を重視し、希望に沿えるよう支援している。職員も併設の病院があるため安心して支援に努めることができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	主治医と連携し、必要に応じて家族とも話し合いの場を持ち、本人にとってどうしたらよいか検討している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	職員の力量は把握しており、その都度検討するようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	管理者、主任、ケアマネ協力し必要に応じて説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡をとりながら体制は整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	特別な内容の主治医からの説明後は主任、ケアマネ協力し家族のフォローに努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	該当する研修に参加したり、併設の医療機関からの助言ももらっている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はできていないが、併設の医療機関と連携し早期の対応に努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	併設の病院からの情報収集やテレビや新聞などで情報は取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの情報を得て予防対策等対応できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒やマスクを置き、感染予防の必要な時期には職員のマスク着用も促している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には家族と話す機会を持つようになっている。				行事の案内はしているが、仕事の都合や遠方などの理由で参加は少ないため、家族が参加しやすいよう日程の調整等を行うことなどが望まれる。疎遠になっている家族も含め、毎月担当職員が1か月の様子を知らせる便りや、行事の際には菜の花だよりを送付しているほか、何かあれば電話で連絡を取っている。面会時には声をかけ家族の思いや希望を聞くようになっている。行事予定や介護報酬の改定などは連絡しているが、職員の異動や担当者の交代などは連絡できておらず、家族との関係構築のためにも報告することが望まれる。面会時には必ず声をかけるなど、普段から話しやすいよう信頼関係の構築に努め、気軽に相談等の対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室で本人様とゆっくり過ごして頂けるように努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	行事の案内をだして参加を呼び掛けている程度。	○		×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りや菜の花便りも発送している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族の質問や不安は面会時に出来るだけ聞くように努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	家族状況に応じ対応するようになっている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事等は伝えているが、職員の移動等は伝えきれていない。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	行事への参加の呼びかけしかできていないので、今後家族会など検討していきたい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	必要に応じ家族に説明し、できる限り対応するよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から家族と連絡を取り、面会時には必ず声を掛けたり、ケアマネも定期的に家族の意向を確認している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者やケアマネ同席で説明・理解していただいている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	老健への移行事例があり、ケアマネと協力し家族と話し合いながらできる限りの対応を行い、スムーズに移行出来た。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	△	金額等の変更があった際は説明、追加契約書等で同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	初期には説明を行い理解を得ていると思う。	/	◎	/	近くの幼稚園や小学校との交流はあるが、地域の活動や行事への参加はできていない。現在、町内会に加入しておらず回覧板が回ってこないため、地域の情報が把握できない状況となっている。地域とのネットワークづくりに努め、利用者が地域と深くつながりながら暮らしていけるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の幼稚園や小学校との交流は来ている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	現在、地域の人との交流はない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に来てもらえるようにしていきたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	挨拶は心がけているが、日常的なお付き合いはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	介護相談員の受け入れや行事の際は地域のボランティアの方を利用している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源の把握を含めて今後取り組んでいきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	年に1回は消防署協力にて訓練を行い、地域の幼稚園や小学校との交流は継続している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	併設の小規模と合同の為、毎回の参加は出来ておらず、地域の方も都合により不参加の事もある。	×	/	△	併設の小規模多機能事業所との合同開催のため、交互に家族に参加してもらっている状況で、参加者が少ないことが課題である。会議では外部評価の報告はできていないので、今後は積極的に報告して欲しい。地域住民の参加については、退所した利用者の家族の参加が見られたが、近隣の住民への声かけや家族に興味を持ってもらえるテーマの選定等を検討し、参加しやすいよう配慮するなど、今後の取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事や研修報告はしている行事については写真を見ながら報告している。	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	包括や市役所、地域の方、民生委員に方などに出来るだけ意見を聞いているが結果の報告は出来ていない。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていないが、出席してもらいやすい時間帯を選び民生委員や地域の方には都合も聞いている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないが必要に応じ閲覧の準備はある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目のつくところに理念を貼り、実践につなげられるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	菜の花便りにも理念をのせている。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修の計画を立てているが力量に応じて研修の参加を促し、費用の負担もある。				代表者が職員に会う機会が少なく、現在は理事長代理に相談したり、管理者を通し代表者に意見を伝えてもらっているが、以前のように意思疎通までには至っていないため、今後は職員の悩み等を聴く機会を設けるなどストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりにも努めて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	△	入職時はOJTも行うがその後は研修参加を促しスキルアップできるよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	やりがいを感じてもらえるように職場環境や配置に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	出来ていないので交流する機会を増やす取り組みに努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取り組めていない。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	高齢者虐待についてミーティングで話し合い、言葉遣いまで気を付ける様指導している。				何気ない声かけや関わり等が不適切な場合は、すぐに話し合い対応するなど、対応方法や手順等について職員全員で共有し支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	ミーティングなどや主任を通じて振り返りをするよう指導している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない声かけや関わり方が不適切だった場合は主任と協力し、すぐに話し合うようにしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声を掛けたり話を聞いている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修の参加はできていないがミーティングで話し合って理解を促している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	月1回のミーティングで話し合う機会を持っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	身体拘束の事例はないが、ミーティング等で話し合う機会を持つようになっている。				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解できているが全員ではない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援していけるようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要に応じ対応するようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、ミーティング等で周知できるよう努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	救命救急の研修参加はしているが全員ではない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	×	ヒヤリハット用紙はあるが活用できていない。活用し再発防止に努めたい。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	モニタリングやミーティングで利用者一人一人の状態を把握しリスク管理に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はすぐに話し合い理解して適切な対応ができるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しては速やかに検討して結果報告するようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者に対しては日々の会話の中で個別に聞けるよう努めている。			◎	利用者との日々の会話の中から聞き取ったり気づいたりしたことを話し合い検討している。意見箱は設置しているが活用されていない。家族には面会時に声かけをし意見や要望を聴いているが不十分なので、意見箱の設置を認識してもらうよう取り組むとともに、さらに意見等の集約にも努めて欲しい。管理者は職員から月1回のミーティングで日々の気づきや意見を聞き、話し合い運営につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	意見箱を玄関先に配置し、推進会議や面会時などでも意見や要望を聞くようにしている。	○		△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	主に契約時のみで適宜施設で相談を受けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は毎日ではないが来られている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見提案をミーティングなどで聞き利用者さま本位の支援につなげている。			○	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年に1回は自己評価を実施している。				目標達成計画について運営推進会議で報告できていない。家族に対しては外部評価を玄関先に置いており、いつでも見られるようにはしているが、アンケートの結果報告はしていない。今後は、目標達成に向けての取組みについてモニターしてもらい、より質の高い事業所を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明確的にすることで意識づけしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向けて実践している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標報告はできていないが今後の取り組みなど報告している	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成計画に掲げた取り組みはしているが成果の確認はできていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	災害時のマニュアルは作成していつでも見れるようにしている。				消防署の指導を受けながら避難訓練を行っており、福祉避難所として指定も受けているが、地域の防災訓練の情報はなく、近隣の事業所や地域住民を含めた訓練や話し合いは行われていない。今後は支援体制の構築などつながりを深め、地域との連携強化に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	1度だけがマニュアルに沿って訓練を行った。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確保や非常食の点検はしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回消防訓練があり、そのうち一度は消防署の参加もある。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の研修には参加し、マニュアルも作成し、災害対策に取り組んでいる				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けて発信で来ていない為今後取り組みたい。				地域からの相談は母体病院にかかってくることが多いが、相談件数があまりないので、事業所の積極的なPRに努めて欲しい。地域包括支援センターの行事や愛媛医療センター主催の研修会に参加したり、同センター地域医療連携室を訪問し連携を図っており、介護教室や認知症カフェの開催など、地域に開かれた事業所を目指すことを検討しており、今後に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	なにか相談があれば支援できるようにしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事の際は交流の場として活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の福祉課等の実習の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連絡を密にとっているが地域のイベントなど参加できていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	やまぶき
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	30年7月9日

<p>【事業所理念】 1.私たちは優しい介護の提供を目指します。 2.温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。 3.常にご利用者の立場になる事を忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 排泄ケアについて・・・利用者の状態や状況に応じておむつの変更や排泄パターンについて話し合い、把握に努め誘導や声掛けを行っている。 身体拘束について・・・拘束ベルト使用中の方が居られ、外せる取り組みを話し合い記録するように努めているが記録が不十分な時があり。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人の母体が医療機関であり、住宅地の一角にある病院に併設され、病院とは渡り廊下でつながっているため、健康管理やリハビリが充実している。医療連携が取れていることで、職員は安心して日々のケアや看取りに取り組めており、利用者目線でよりよい生活の支援を目指している。地域との協力体制が不十分であると認識しており、今後介護教室や認知症カフェの開催を目指して検討中である。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	毎日会話の中で本人の希望などを聞くようにしている。	○	/	◎	日々の会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向を聞いている。介護計画見直し時には改めて意向の確認に努めている。新たな情報は日誌や介護記録に記載し、情報の共有を図っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情で見極めたりしてその人らしく過ごせるように努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	言葉や気づきを観察記録に記入している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意向や思いを聞くようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	利用開始時に聞くようにしている	/	/	△	入居時や面会時に利用者や家族から聞き取っているほか、入居前に利用していたサービス事業所からも、生活環境やこれまでの経過等の情報を提供してもらい把握するようにしているが十分ではないので、知人の面会を利用するなど、あらゆる機会を利用し情報の収集に努めて欲しい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の中で把握して申し送りや観察記録に記入している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	気づきは観察記録に記入している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	その都度職員間で話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	観察記録や申し送りで把握できるようにしている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	リハビリ、職員で話しあっている	/	/	◎	毎月ミーティングを開催しモニタリングを実施しており、一人ひとりの利用者の望む暮らしについて利用者の視点で検討している。ミーティングには夜勤者も含め全員が参加し協議内容を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	月1回のミーティングで話しあっている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	月1回のモニタリングをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	アセスメントを元に本人らしい暮らしができるプランを作成している	/	/	/	利用者や家族だけでなく、ユニットの担当者やリハビリスタッフ等、関係者の意見を聞き、より良く暮らすための介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族と話をすることで意見などを聞き反映できるよう作成している	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方には状態に合った暮らし方でくらしを促している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力もプランに少しではあるが盛り込まれている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	モニタリングを行い、ミーティングで話し合い職員間で共有している	/	/	○	利用者一人ひとりの状況は毎月のミーティングで共有している。毎日の観察記録に介護計画の実施状況のチェックを行い評価している。具体的な内容については観察記録に記録しているが、不十分な点もあるため、今後改善に向けた取組みに期待したい。職員の気づきやアイデアなどは申し送りノートに記載し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日の観察記録に介護計画の評価を行っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	観察記録に記録するように努めているが全ては書けていない	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌などに気づきを記入するようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ミーティングで話し合い、見直ししている	/	/	○	全利用者の介護計画は見直し時期が分かりやすく一つにまとめてファイリングされており、通常6か月で見直されている。状態に変化がない場合でも、毎月担当者がモニタリングを行い、ミーティングで報告し共有している。骨折や病状に変化がある場合などは、その都度関係者で見直し現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員間で現状や変化を報告している	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	入院後や身体の状態に変化があった場合話し合い現状に応じたプランを作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	ミーティングで話し合っている	/	/	○	月1回のミーティングで利用者の情報共有や課題の検討を行い、緊急案件はその都度話し合っている。基本的には全員参加としているが、参加できない職員はミーティングノートで確認できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見交換できるように雰囲気づくりしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	時間は昼過ぎに行いみんなが参加できる時間帯にしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	△	ミーティングノートを作成しており、みんなが確認できるところに置いてある	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	日誌や申し送りノートを活用して確認したら印をするようにして共有できるようにしている	/	/	◎	職員間で共有すべき内容については、朝夕の申し送りで情報を伝えるほか、日誌や申し送りノートを活用し、確認印やサインをすることで確実な伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝・夕の申し送りを必ず行い、情報を伝えている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日常の会話の中でしたいことがないか聞いたりしている	/	/	/	起床のタイミングや入浴に関してはその都度「～しますか？」と聞いており、また洋服を選んでもらったり、就寝時間なども利用者の希望を聞き、本人のペースで自由に生活している。レクリエーションの際には、みんなで楽しめる雰囲気づくりの様子と利用者の表情の変化を見ることができた。食事の際のテーブル席は決まっているが、それ以外は自由に席を移り会話を楽しんでいる様子が窺えた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	自己決定できるような声掛けをしている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	自分のしたいこと言いたいことは言われていると思う。できる範囲で支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	利用者様のペースで生活し、臥床の時間もバラけている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	できそうなことは声掛けを行い、していただいて感謝の言葉を伝えるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を見極めて支援するように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	△	接遇の研修に参加して声掛けなど十分に気を付けている	○	○	○	職員は接遇の研修で人権や尊厳について学んでおり、利用者が傷つくような、失敗を指摘するような声かけはしないように心がけている。職員のトイレ誘導時の声かけなどには配慮しているが十分ではないので、職員全員で共有し取り組むことが望まれる。居室の入室時にノックや声かけはできているが、利用者がリビングで過ごしている時には声かけなしで入室することがあり、職員全員で徹底しプライバシーの確保に努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	×	声掛けの仕方や配慮に欠けているところもあり。ミーティングで話し合っている	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	配慮に心掛けているが欠けているところがある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	声掛けはしているが、まだまだ自室のノックができていない時もある	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	△	情報漏えい防止のために就職したら、誓約書取っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯量などを一緒にすることで感謝の気持ちを伝えるようにしている	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握し席を決めている。利用者の状態の変化や気分によって席を変えるなど配慮しており、利用者同士の会話も弾んでいる。夫婦で別室に入居されている利用者には、お互いの気持ちを尊重しつつも二人で過ごし支えあえるよう配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で声掛けあったり、いたわりながら暮らせている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さまの関係性に把握してトラブルがないように職員が間に入り対応している	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	さりげなく間に入るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	家族以外は把握できていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族からの聞き取りや会話の中での情報で把握するようにしている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	知人に会いに行ったりはできていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来棟の際は自室でゆっくり過ごせるようにしている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はたまにあるが少ない為中庭で日光浴など行うようにしている	△	×	△	職員は利用者との普段の会話の中から意向をくみ取ることではできており、近所のスーパーに買い物に行ったり、食事に出かけたりすることもあるが、頻度としては少ないので外出の機会を増やすよう努めて欲しい。重度の利用者は散歩に付き添うのも難しい状況で、中庭での日光浴で気分転換を図っている。毎月ユニット間の交流は行われており、交代で当番のユニットに出かけ関わりを持つようにしているが、戸外に散歩に出かけるなどの取組みにも期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	状態を観ながら中庭で日光浴をしている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	本人の希望は把握しているがなかなか行けていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の理解をして状態変化時には話し合いをしている	/	/	/	庭に出て一緒に洗濯物を干したり、ソファに座って取り込んだ洗濯物を畳んだり、コップ洗いやお盆拭きなど、それぞれの利用者ができることに取り組めるよう、職員は見守りやさりげない支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全員はできていないが今後取り組むようにしている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	できる事はして頂きできないところを一緒にしている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	生活歴を踏まえて、楽しみを考えている	/	/	/	職員は利用者のできることを確認しながら、日常生活の中で張り合いのある暮らしを支援している。中庭の落ち葉の掃除を丁寧にしてくれる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	独りひとりにあった役割を作れるようにしている	△	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の参加はできていない	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の好みの髪型を聞きながらしている	/	/	/	食後は各居室で口腔ケアを行っており、着衣が汚れている時は「かわいい服に着替えますか？」と声をかけ、好みの服に着替えるなど配慮している。美容院に行かれる利用者が2人いるが、他の利用者は職員が本人の好みを聞きながら定期的にかットしている。重度な利用者も好みの髪型を聞き、その人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	自分の出来る方は好きなようにされている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けを行い出来る範囲でしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時にはおしゃれも楽しんでもらえるようにしている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	食後は特に注意して、さりげない声掛けをしている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族にも協力してもらい望む美容室に行ってもらっている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	髪形など本人らしさが出るようにしている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	食事の楽しさを理解して支援している	/	/	/	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材も一括購入され、バランスの取れた献立になっている。「饅頭が食べたい」などの希望を反映し、おやつを手作りすることもあるが、旬の食材や昔なつかしいものを献立に取り入れるなどの取組みにも期待したい。茶碗やコップ、箸などは馴染みのものを使っている。食事介助の必要な利用者が多く、職員はサポートに専念するため一緒に食べることはできないが、介助しながら見守りや声かけを行っている。重度の利用者も状態を見ながら時にはリビングで一緒に食べているが、日頃から献立の話をするなど食事が楽しみになるような取組み等にも期待したい。調理専門のスタッフが、栄養士のアドバイス等をもとに、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう各ユニット毎に調理している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	片づけを出来る利用者様には、手伝ってもらっている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	毎日ではできていないがお盆と一緒に拭いたりしてもらい、達成感につなげている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前に本人や家族から聞き取りして把握するようにしている	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	栄養士の作ったメニューの中に季節感を感じられるメニューもあります	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうに盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々にあった食事形態にあわせてキザミ食やトロミなどしている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物や使いやすい物を持ってきてもらっている	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べていないが見守りや介助をしながら、食べこぼしや座位姿勢を整えるサポートをしている	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	重度の方はいないが、状態を見ながらみんなで楽しく食事できるようにしている	○	/	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が作ったメニューで栄養バランスはよく、水分もなるべく摂取してもらうように対応している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミングを見ながら、脱水にならないように声掛けなど工夫している	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が作った献立には一人分の量を書いてあるので参考にしている	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	夜に調理器具などハイターに付けて消毒している	/	/	/			

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口腔ケアの重要性を話し合っており、理解していると思う	/	/	/	口腔ケアは1日4回(起床時と毎食後)声かけを行い実施している。自分でできる利用者には自分でするよう声をかけ、口腔内に食べ残しがないか確認している。口を開けてくれない利用者にはお茶を飲んでもらったり、ガーゼで拭き取りをして口腔内の清潔保持を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でできない方に対しては確認しているが自分でできる方は確認不足の時がある	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医に月1回来ていただいてケアの仕方など教えていただいている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来ない方は職員が行い、出来る方は声を掛けながらして頂いている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	毎食後声掛け誘導を行い清潔を維持できるようにしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	変化があった時には家族に連絡して歯科受診を勧めている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけトイレで排泄できるようにしている	/	/	/	おむつ使用者もトイレ誘導を行いトイレでの排泄を目指している。立位が困難な利用者は2名体制で介助している。おむつ使用の適正についてミーティングで話し合っており、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。日中はできる限りトイレでの排泄支援に努め、夜間は睡眠を優先して定期交換するなど、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員で話し合っており理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表に記録して把握するようにしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ミーティングでオムツの使用について、現状に合っているか見直し、検討している	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給の促しや入浴時には湯船に浸かってもらうようにしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	記録をとることで一人ひとりのパターンを把握し声掛け誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	×	家族にも説明しているが話し合いはできていない	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	牛乳などを飲んでもらったり工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	声掛けしながら希望に沿えるように入浴してもらっている	○	/	○	週2回午後入浴を基本としているが、利用者の希望には柔軟に対応しており、曜日を変更したり週3回入浴する利用者もいる。重度の利用者も2人介助で浴槽につかってもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースで入浴してもらっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ないところを支援し安心して入浴してもらっている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	話を傾聴したり時間をあけて再度声掛けを行ったり工夫している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴時にはバイタル測定し、日中の状態を確認しながら行っている。入浴後は水分補給し状態確認している	/	/	/	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとり、申し送りで把握している	/	/	/	夜眠れない利用者については、日中の離床時間や活動を多くするよう工夫しており、安易に薬には頼らない支援に取り組んでいる。不眠等不穏な状態が続きやむを得ない場合は、主治医と相談し薬を服用するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の声掛けや離床時間を増やし生活リズムを工夫している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	入所前から飲まれていた方も医師と相談しながら指示に従っている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	自由に休んでもらえるようにしている。介助が必要な方は聞きながら行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	出来ないののでできるように支援したい	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	以前は居られたが今はできていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	いつでも電話出来る様にはしているが利用者様がかけられたりしたことはない	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	届いた手紙などはご本人に渡しているがそのままになっていることが多い	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	家族の理解、協力はいただいている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はできている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出時には自分の欲しい物を買っていただいている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	職員と一緒にいられ問題なく買い物している	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談して、金額は決めさせてもらっているが、自分で使えるようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	面会時に使い方を伝えている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	基本預りはせず、外出予定があるときに預かっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る限り本人や家族の意向に添えるように取り組んでいる	○	/	○	母体病院以外の受診は家族介助が基本で、介護タクシーの紹介もしているが、家族の状況によっては受診介助や救急車の同行にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上、外玄関には施錠させてもらっている	○	◎	×	中庭に面した外玄関前は広々としており駐車スペースも十分にあるが、防犯上の観点から常時施錠されている。家族や近隣の住民が気軽に入出入りできるよう取り組むことが望まれる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	家庭的な雰囲気で明るく、季節の花を飾り心地よく過ごせるように工夫している	○	○	○	キッチン是对面カウンターになっており、リビングの様子が窺えるようになっている。リビングは中庭に面した開放的な大きなガラス戸から、芝生や木々の緑を眺めることができる。細かいところまで清掃ができていないので、清潔感が保てるよう取り組んで欲しい。隣接する病院との渡り廊下では利用者の会話が聞こえ、不快な臭いは感じない。ひまわりやあじさい、朝顔などの壁飾りの作品や七夕飾りが季節感を醸し出している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	定期的に換気を行い、配慮している。毎日清掃しているが細かいところまで行き届いていない	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	花の匂いやテレビの音等生活感があるように心がけている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	椅子やソファあり、利用者同士でくつろげるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	工夫はしていないが使用時はドア必ず閉めるようにしている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたタンス等を持参してもらい使ってもらっている	○	/	◎	洋服たんす、チェスト、エアコン、ベッド、洗面台は備え付けられているが、テレビや冷蔵庫は利用者の希望で持ち込まれている。ぬいぐるみや塗り絵作品、家族写真や観葉植物なども置かれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	手すりを使って自立した生活が送れるようにしている	/	/	○	居室の表札やトイレ・風呂の表示も手作りで、個別性があり分かりやすいよう工夫したり、手すりも設置するなど自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	場所が分かるように掲示している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	生活空間には置いていないが本人の希望があれば出せるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員にも伝え理解はしているが外玄関は施錠している	×	×	×	職員は玄関等の施錠の弊害について理解しているが、玄関は安全確保のため常時施錠されているため、職員が常に見守るなど自由に出入りできるよう支援に努めることが望まれる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	自由な暮らしの理解はしているが安全上施錠させてもらっている。話し合いは出来ていない	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	近所の理解・協力がなかなかできていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をまとめて個人ファイルの前に挟んでいる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルや食事・水分量・排泄・睡眠状態を記入している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関いつでも連絡できる体制があり、常に情報交換を行い共有している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意向を聞き受診してもらっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医と連携を取っており、利用者はいつでも適切な医療を受けられるようにしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は必ず家族に連絡し報告している。また申し送りなどで職員にも情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	日々の情報をまとめて作成して渡すようにしている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネが病院と連携を取り状態を確認したり努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	連携室と関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力機関の看護師や医師に報告するようにしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡でき、対応可能な体制になっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、小さな変化でも報告している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬情はいつでも確認できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れを防ぐために2名で出すようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	変化があるときには必ず報告するようにしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	診察時に変化や状態を報告するようにしている				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居前には家族に説明しており、状態変化に家族、主治医と相談話し合っている	/	/	/	状態が変化した時には、家族や主治医、職員のみでなく協力医療機関とも話し合い今後の方針について共有している。家族の意向を重視し、希望に沿えるよう支援している。職員も併設の病院があるため安心して支援に努めることができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族と必要に応じて看護師や主治医と話し合い、本人様にとってどうしたらよいか確認しながら支援内容を検討している	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量は把握しており、思いなども聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えたうえで対応している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡をとりながら体制を整えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	その都度話を聞いてあげている。職員の声掛けには十分気を付けている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修に参加したり勉強会などで学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないが流れの書いてあるマニュアルを、いつでも見れるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞などで情報は取り入れている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	病院からの情報を得て予防対策等対応できるようにしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒やマスクを置いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には話をするようにしている				行事の案内はしているが、仕事の都合や遠方などの理由で参加は少ないため、家族が参加しやすいよう日程の調整等を行うことなどが望まれる。疎遠になっている家族も含め、毎月担当職員が1か月の様子を知らせる便りや、行事の際には菜の花だよりを送付しているほか、何かあれば電話で連絡を取っている。面会時には声をかけ家族の思いや希望を聞くようにしている。行事予定や介護報酬の改定などは連絡しているが、職員の異動や担当者の交代などは連絡できておらず、家族との関係構築のためにも報告することが望まれる。面会時には必ず声をかけるなど、普段から話しやすいよう信頼関係の構築に努め、気軽に相談等の対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には居室で本人様とゆっくり過ごして頂けるように声掛けを行っている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	行事の案内をだして参加を呼び掛けている	○		×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便り、菜の花便りでも通信している	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれたことは伝えるようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	本人様と家族さまの関係が維持できるように支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	行事等は伝えているが、職員の移動等は伝えきれていない	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	出来ていない為家族同士の交流が図れるように支援していきたい				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	×	自由に暮らして頂けるように説明はしているがリスクまでの説明はあまりできていない				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から話し合える信頼関係に取り組んでいる。面会時には必ず声を掛けさせていただいている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	管理者やケアマネ同席で説明・理解していただいている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	相談にのりながら支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があった際は説明して同意を得るようにしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	説明を行い理解を得ていると思う	/	◎	/	近くの幼稚園や小学校との交流はあるが、地域の活動や行事への参加はできていない。現在、町内会に加入しておらず回覧板が回ってこないため、地域の情報が把握できない状況となっている。地域とのネットワークづくりに努め、利用者が地域と深くつながりながら暮らしていけるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の小学校等の運動会には参加している。また毎日の挨拶は心掛けている	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の人との交流は無い	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に来てもらえるようにしていきたい	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	あいさつをしたりする程度	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事の際はボランティアの方にも参加していただいている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように支援していきたい	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の幼稚園と交流している。また町内の飲食店は利用させていただいている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	併設する小規模多機能と合同にしているため、家族の参加は毎回ではない。また、地域の方は参加できないこともあり	×	/	△	併設の小規模多機能事業所との合同開催のため、交互に家族に参加してもらっている状況で、参加者が少ないことが課題である。会議では外部評価の報告はできていないので、今後は積極的に報告して欲しい。地域住民の参加については、退所した利用者の家族の参加が見られたが、近隣の住民への声かけや家族に興味を持ってもらえるテーマの選定等を検討し、参加しやすいよう配慮するなど、今後の取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事や研修報告はしている行事については写真を見ながら報告している	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	現況報告を行って意見をいただいている	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマは決めていないが、出席してもらいやすい時間帯を選んでいる	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	公表はしていないが言って頂いたら見せれるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	目のつくところに理念を貼り実践につなげられるようにしている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	菜の花便りにも理念をのせている	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修の計画を立てているが力量に応じて研修の参加を促している				代表者が職員に会う機会が少なく、現在は理事長代理に相談したり、管理者を通し代表者に意見を伝えてもらっているが、以前のように意思疎通までには至っていないため、今後は職員の悩み等を聴く機会を設けるなどストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりにも努めて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	スキルアップできるように技術を伝えたりしている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	やりがいを感じてもらえるように職場環境や配置に努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	出来ていないので交流する機会を増やす取り組みに努めたい				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取り組めていない		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	高齢者虐待についてミーティングで話し合い、言葉遣いまで気を付ける様話し合い理解している				何気ない声かけや関わり等が不適切な場合は、すぐに話し合い対応するなど、対応方法や手順等について職員全員で共有し支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングなどや日々の中で話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない声掛けや関わり方が不適切だった場合はすぐに話し合うようにしている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声を掛けたり話を聞いている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	×	研修の参加はできていないがミーティングで話し合って理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング内や日々話し合っている				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束をしている利用者様はいるが、外す取り組みにを日々話し合っている				

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	理解できているが全員ではない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援していけるようにしたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な時には連絡を取り相談している				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、周知で来ている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練はできていないが日々の中で実践に身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	×	ヒヤリハット用紙はあるが活用できていない。活用し再発防止に努めたい				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態をよく理解してリスク管理に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はすぐに話し合い理解して適切な対応ができるようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情にたいして速やかに検討して結果報告するようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱の設置を設け伝えられるようにしている			◎	利用者との日々の会話の中から聞き取ったり気づいたりしたことを話し合い検討している。意見箱は設置しているが活用されていない。家族には面会時に声かけをし意見や要望を聴いているが不十分なので、意見箱の設置を認識してもらうよう取り組むとともに、さらに意見等の集約にも努めて欲しい。管理者は職員から月1回のミーティングで日々の気づきや意見を聞き、話し合い運営につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を玄関先に配置している	○		△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供は行っていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は毎日ではないが来られている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見提案をミーティングなどで聞き利用者さま本位の支援につなげている			○	

愛媛県グループホーム菜の花

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年に1回は自己評価し目的を理解している				目標達成計画について運営推進会議で報告できていない。家族に対しては外部評価を玄関先に置いており、いつでも見られるようにはしているが、アンケートの結果報告はしていない。今後は、目標達成に向けての取組みについてモニターしてもらい、より質の高い事業所を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題を明確的にすることで意識づけしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向けて実践している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標報告はできていないが今後の取り組みなど報告している	×	×	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	目標達成計画に掲げた取り組みはしているが成果の確認はできていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアルは作成して周知している				消防署の指導を受けながら避難訓練を行っており、福祉避難所として指定も受けているが、地域の防災訓練の情報はなく、近隣の事業所や地域住民を含めた訓練や話し合いは行われていない。今後は支援体制の構築などつながりを深め、地域との連携強化に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	1度だけがマニュアルに沿って訓練を行った				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的に避難経路の確保や非常食の点検はしている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回消防訓練があり消防署の方にも来ていただいている	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の研修には参加しており災害対策に取り組んでいる				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けて発信で来ていない為今後取り組みたい				地域からの相談は母体病院にかかってくることが多いが、相談件数があまりないので、事業所の積極的なPRに努めて欲しい。地域包括支援センターの行事や愛媛医療センター主催の研修会に参加したり、同センター地域医療連携室を訪問し連携を図っており、介護教室や認知症カフェの開催など、地域に開かれた事業所を目指すことを検討しており、今後に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	なにか相談があれば支援できるようにしている		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事の際は交流の場として活用している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	高校の福祉課等の実習の受け入れを行っている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	連絡を密にとっているが地域のイベントなど参加できていない			△	